

公立大学法人横浜市立大学 第4期中期計画策定 進捗状況について

令和3年8月17日開催第87回横浜市公立大学法人評価委員会にて提示された「公立大学法人横浜市立大学第4期中期目標（R5～10）策定に向けて」を受け、法人において第4期中期計画骨子の検討を進めています。

1 第4期中期計画策定の視点

- (1) 市から提示された「第4期中期目標策定に向けて」の基本的考え方
- (2) 第3期中期計画中間実績（自己評価）及び法人評価委員会のみなし評価
- (3) 大学機関別認証評価（5月法人評価委員会にて報告予定）等の外部評価
- (4) 社会ニーズに沿った取組（DX、SDGs、イノベーション、リカレント教育等）
- (5) 持続的な法人経営
- (6) 大学創立100周年（第4期中期計画最終年度：2028年度）、医学部・附属2病院等再整備

2 計画の構成

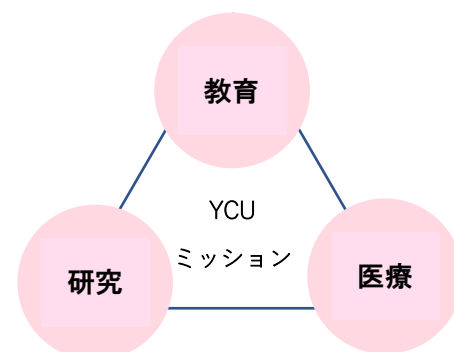
第4期中期計画では、法人の理念である『YCU ミッション』に沿った「教育・研究・医療」の3つを核とすること、また、「医学部・附属2病院等再整備事業」も踏まえた施設整備を明示する意図から、以下の構成としています。

第3期
I 教育研究等
II 地域貢献
III 国際化
IV 附属2病院
V 法人の経営
VI 自己点検及び評価
VII (以下、省略)

第4期
I 教育
II 研究
III 医療
IV 地域貢献
V グローバル化
VI 施設整備
VII 法人の経営
VIII 自己点検及び評価
IX (以下、省略)

<参考>法人の基本理念となる位置付けである『YCU ミッション』

国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。



3 主な計画項目

I 教育

＜検討の方向性（考え方）＞

教育分野では、**法人化以降、取り組んできたリベラルアーツ教育をさらに発展させ、豊かな教養と高度の専門性及び高い倫理観を兼ね備えた人材を育成**する。そのためには、多様性が重要であり、多様な人材を獲得するための入試を実施する。また学問領域を問わず、**データ思考の出来る人材**を育成し、先の時代を見据えた課題にも的確に対応して新たな価値を創造することのできる**インベティブな人材を輩出**する。

全学で推進するデータ思考教育、総合大学として**全学部と融合を進めてきた医学・ヘルス分野を本学の特長として最大限に活かして学問横断的な教育を行う**とともに、学修者本位の学びを重視し、DXを活用して学修効果を検証するための**教学IRを推進**する。また、ポストコロナ、ニューノーマルといった**環境の変化にも柔軟に対応する機動性と先見性に重点を置いた教育体制を構築**し、併せて**学生一人ひとりが充実した学生生活を送ることができるよう経済的支援**、学術情報の提供や健康面のサポート等を行うとともに**最適なキャリア支援**を行っていく。さらには専門性を高めるための大学院進学を推奨し、積極的な支援を行うとともに**大学院のあり方について検討**する。

第4期期間を通して教育の質と研究の質をともに高め、相互の活動に活かしていく。

(1) 新たな時代を見据え、時代に応える教育の提供と発信

1	全学横断的な教育の質向上・発信
2	＜国際総合科学群 学部＞データ思考人材、リーダー人材の育成とスタートアップ支援
3	＜国際総合科学群 研究科＞大学院重点化(学部接続・研究力強化)、リカレント教育
4	＜医学部＞時代の変化に対応した医療人材育成
5	＜医学研究科＞医療分野の発展に貢献できる高度人材の育成

(2) 5学部6研究科の特長を活かした領域横断教育の推進

1	＜学術院＞FD・SD、IR、教育手法・プログラムの全学展開
2	共通教養教育、全学DS教育、SDGs教育推進
3	領域横断プログラム、学内領域横断連携強化

(3) 学修者本位の教育と時代に即した学修環境の提供

1	LMS(DX)・ハイブリッド授業等活用、学修者本位の学修推進、環境整備・支援
2	多様なキャリア支援
3	学生支援(健康、経済的、課外活動)

(4) ダイバーシティ&インクルージョン教育と多様で感性豊かな高度人材の育成

1	グローバル教育、多様な学生受入・支援
2	多様で優秀な人材獲得(高大連携、入試)
3	ボランティア活動を通じた地域貢献【地域貢献】

Ⅱ 研究

＜検討の方向性（考え方）＞

研究分野では、**基礎的研究力の強化**とともに**地域課題や地球規模の課題など様々な社会課題の解決**を目指した**戦略的かつ先進的な研究及び領域横断研究**を推進する。さらに**オープンイノベーションにより外部組織と効果的に連携**することで、本学の**研究成果の効果的な社会実装を推進**する。そのため、データサイエンス学部・研究科及び医学部・研究科をハブとした**領域横断研究**、先端医科学研究センター、木原生物学研究所及び生命医科学研究科を中心とした**生命科学・生命医科学の先端的研究・新興感染症研究**等について、様々なパートナーと連携して取り組み、「**研究の横浜市立大学**」として**世界に発信**する。

また、附属病院は、日本発の革新的な医薬品や医療機器の開発に必要な**質の高い臨床研究や治験を地域とともに推進するための臨床研究中核病院**として、**県内における中心的な役割**を果たす。

(1) 先進的な医科学研究及び臨床研究の推進【地域貢献】【グローバル化】

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 先進的な医科学研究の推進 |
| 2 | 臨床研究の推進 |

(2) 各領域における研究活動の推進と発信【地域貢献】【グローバル化】

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 各領域における研究活動の推進 |
| 2 | 各領域における研究成果の発信 |

(3) オープンイノベーション等を通じた特長のある研究分野への挑戦【地域貢献】【グローバル化】

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | オープンイノベーション等を通じた特長のある研究分野への挑戦 |
|---|-------------------------------|

(4) 研究基盤の強化及び外部資金の積極的な獲得

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 研究基盤の強化 |
| 2 | 外部資金の積極的な獲得 |

(5) 研究者の育成及び女性活躍の推進

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 研究者の育成及び女性活躍の推進 |
|---|-----------------|

Ⅲ 医療

<検討の方向性（考え方）>

附属2病院については、横浜市にある公立大学附属病院として、**明日を担う質の高い医療人の育成**につとめるとともに、**臨床研究等を含めた更なる高度な医療の提供**を目指す。

また、今後の人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの変化を見据え、**地域の医療機関との機能分化・連携**を進め、引き続き**市民の健康の保持に寄与**していく。

一方で、**働き方改革に対応**するため、**病院で働く全ての教職員が働きやすい職場環境を構築**する。

さらに、**横浜市とともに医学部・附属2病院等再整備事業を推進**するとともに、**統合を見据えた2病院の連携強化を一層推進**する。

(1) 患者本位の医療の提供と医療安全の取組

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 患者本位の医療提供 |
| 2 | 安全・安心な医療の提供 |
| 3 | I C T・DXの推進 |
| 4 | チーム医療の強化 |

(2) 質の高い医療を提供、大学病院としての特色を活かした臨床研究の推進

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 高度で質の高い医療の提供 |
| 2 | 医療の国際化への対応 |
| 3 | 臨床研究の推進 |

(3) 政策的医療への貢献、地域医療の推進

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 地域医療への貢献 |
| 2 | 政策的医療の推進 |
| 3 | 地域医療連携の推進 |

(4) 職員の健康を守り、働きやすい職場環境の実現

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 多様な働き方の推進 |
|---|-----------|

(5) 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 医療人材の育成 |
| 2 | 経営力を備えた人材育成 |
| 3 | 医療人材の活用 |

(6) 医学部・附属2病院等再整備事業及び統合を見据えた取組の推進及び経営基盤の強化

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 2病院の連携・経営基盤の強化 |
| 2 | 2病院の共通化・共有化の推進 |
| 3 | 医学教室の再編成 |

IV 地域貢献

<検討の方向性（考え方）>

地域貢献については、国際都市横浜にある知の拠点として、横浜市をはじめとする自治体や業界等との連携を深め、教育・研究・医療を通じ、研究成果の社会実装や知的・医療資源の還元を積極的に進めることで“地域社会のハブ”となり、横浜市と大学及び地域社会の協働による横浜発のイノベーション創出、地域課題解決及び地域経済発展、そして社会全体へ貢献することを目指す。

地域貢献へ一体的に取り組むための「地域貢献センター」の体制等について検討し、併せて地域貢献活動に対する評価システムを再構築するとともに、学内外への浸透に向け、広報を含めた取組をさらに強化していく。

また、社会人の学び直しによる地域が必要とする人材を育成するリカレント教育を推進するとともにエクステンション講座のあり方を整理し、オンライン講座等の様々な形態による講座を展開し、様々な地域・年代をターゲットとした生涯教育を実施する。

(1) 地域社会との協働を見据えた地域貢献推進体制と制度整備

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | コーディネート機能の強化による県市等との連携推進 |
| 2 | 情報発信による社会連携・地域貢献活動の見える化 |

(2) 各分野における地域貢献・地域連携

各分野で【**地域貢献**】を付した取組

(3) 社会ニーズを踏まえたリカレント教育の実施及び戦略的なエクステンション講座の推進

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 【 再掲 】多様な人材を育成するリカレント教育 |
| 2 | 市大ならではの戦略的なエクステンション講座の実施 |
| 3 | リカレント教育との接続となるエクステンション講座の実施 |

V グローバル化

<検討の方向性（考え方）>

第4期中期計画期間においては、国際社会におけるデジタル化・グローバル化の一層の加速・進展に乗り遅れることなく、大学の取り組みを進めていくことが求められる。

第4期におけるグローバル化については、第3期までに拡充・整備してきた協定締結大学や国際交流プログラム等のグローバル化基盤の“質を向上させる”フェーズと位置付け、国際都市横浜にある大学として、横浜市との連携をより一層深めつつ、教育・研究・医療の各分野においてグローバル化を進展させ、戦略的に本学の特長を伸ばし、国際的な発信力を高める。

グローバル化については、特に、ポストコロナ・ニューノーマルという視点を十分に踏まえ、オンラインをはじめとした新たな国際交流の形を模索する。

(1) グローバル教育による横浜市立大学発のグローバルリーダー育成

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 「国際的にリーダーシップを発揮できる人材」の輩出を目指した留学体系の整備 |
| 2 | 学部等と連携した切れ目のない支援体制の整備 |

(2) 質の高い、学生の国際交流戦略

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 優秀な留学生の戦略的獲得<入口> |
| 2 | 受入支援体制の整備<在学中> |
| 3 | 留学生就職促進プログラム自走体制による出口支援の充実<出口> |

(3) 横浜ブランドを活かしたグローバルネットワークの構築

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 質が担保された海外大学との交流実績拡充及び新規協定校の戦略開拓 |
| 2 | 横浜ブランドを活かした国際交流事業の推進 |
| 3 | アカデミックコンソーシアム事業における研究教育活動の推進 |

VI 施設整備

<検討の方向性（考え方）>

第4期中期計画における教育・研究・医療・地域貢献・グローバル化の各分野における目標を達成しつつ、大学創立100周年、医学部・附属2病院等再整備、そしてその先を見据えた魅力的な大学・病院を目指す。各キャンパスではキャンパスマスタープラン等に基づく計画的な施設整備を進めるとともに、福浦キャンパス及び病院では医学部・附属2病院等再整備事業を推進し、SDGs、DX、ダイバーシティなどの視点も踏まえながら、「魅力のあるイノベーション発信拠点・地域のハブ拠点」を目指し、施設・環境面の機能・魅力向上を図る。

(1) 医学部・附属2病院等再整備事業

1	「最高の医療・医学研究・人材育成拠点」の実現に向けた再整備の検討推進
---	------------------------------------

(2) イノベティブ拠点としての魅力的なキャンパス・病院作り

1	カーボンニュートラルをはじめとする社会的要請への実現
2	キャンパスマスタープランの具現化
3	省エネを考慮した計画的メンテナンス
4	働き方改革やDX推進を支えるICTインフラ整備
5	福浦キャンパスの機能維持

Ⅶ 法人の経営

＜検討の方向性（考え方）＞

法人経営においては、理事長・学長のリーダーシップのもと、一層のコンプライアンス推進・ガバナンス強化に加え、不断の経営改革や基金等による財政基盤強化を進めるとともに教職員間で広く信頼関係を築き、経営の土台をより強固なものとする。

また、急速に変化する社会情勢に柔軟に対応し、本学の特長を伸ばしつつ将来にわたって持続可能な経営を行っていくため、経営資源である人材の育成をはじめ、新たな課題に対してもスピード感を持って対応できるようにバランスよく投資し、経営基盤の強化を図る。

さらに、教職協働・働き方改革等、組織・人事面での改革を推進し、2028年度に迎える大学創立100周年に向けて教職員が生き生きと働くことのできる職場をつくとともに発信力を高め、教職員、卒業生が一体となって横浜市立大学ブランドを作り上げる。

これら第4期中期計画達成に向けた全ての活動を通じて、市民や患者の皆様から信頼され、市民の誇りとなる大学・病院を体現していく。

(1) コンプライアンス推進・ガバナンス強化

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 帰属意識の醸成によるコンプライアンス推進と浸透 |
| 2 | 組織を慮ることのできる教職員の育成とハラスメント防止 |
| 3 | 情報漏えい事故の再発防止策の確実な実行による個人情報保護の推進 |
| 4 | トップマネジメントによる組織の一体感醸成 |
| 5 | 内部統制によるリスクマネジメント強化 |

(2) 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | DX推進及び支援による業務改善と利用者満足の上昇 |
| 2 | 自律的な運営に資する外部資金獲得施策の実施 |
| 3 | 法人全体の効率的かつ効果的な運営 |

(3) 教職員が生き生きと働くための人材育成・人事制度の確立

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 働き方改革の推進及び各種人事制度の浸透 |
| 2 | SD制度の活用と浸透による各分野活動の活性化 |
| 3 | 教職員エンゲージメントの向上 |

(4) 100周年に向けた横浜市立大学ブランドの強化と広報（100周年・卒業生・基金の連動）及び積極的な情報公開

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1 | 100周年事業（5プロジェクト）の実現に向けた取組と100周年以降への継続 |
| 2 | 卒業生連携と基金の有効的な活用 |
| 3 | 経営方針に沿った戦略的広報の展開 |

(5) 財務内容の改善：運営交付金・貸付金

Ⅷ 自己点検及び評価

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 目標の浸透と適切かつ効率的な自己点検・評価の実施 |
|---|--------------------------|

第4期中期計画の概要イメージ

YCUミッション

国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す。

大学の基本方針

- ・横浜から世界へ羽ばたく人材育成
- ・知の創生・発信
- ・知的・医療資源の還元

